令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 七里 小学校 ）　　学校番号　063　　【様式】

目指す学校像	児童一人ひとりの可能性を伸ばす学校　～誰もが通いたい、通わせたいと思う学校～

重点目標	
	１　学力の基礎的・基本的事項の確実な定着 ２　すべての子どもが、のびのび学校生活を送ることができる環境づくり ３　子どもをよりよく変容させ、地域・家庭からの信頼を得ることで、地域・家庭・学校の連携をより強化する ４　「当たり前」を大切にしながら子どもに指導し、自らを高めようとする教職員の育成

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月９日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○全国学力・学習状況調査結果(R04 年度→国語・算数)について、さいたま市平均を大きく下回っている。 ○さいたま市学習状況調査結果(R04 年度→国語・算数)について、3,5,6 年生は両科目ともさいたま市平均を下回り、4 年生は、国語はさいたま市平均を上回り、算数は下回った。 ○授業中は、なんでも言える雰囲気の中、自分の考えを発言する子どもの姿をよく見かける。 ○ノートを書く際に、誰もが読める字で書くように指導することがよくある。 【課題】 ○各学力調査結果から、全ての子どもたちに、学力の基礎的・基本的事項の確かな定着がなされていない。 ○文章を理解する力(読解力)が、身についていないため、問いの意味が理解できず、解決させることができない。	・学力の基礎的・基本的事項の確実な定着	・「学習規律(学習するにふさわしい環境 正しい姿勢 鉛筆の正しい持ち方等)」を毎授業時に確認・徹底する ・昨年度、全職員で作成した「学力向上プリント」の活用(定着するまで何度でも)及びその改善 ・普段から、職員同士なんでも言える雰囲気を大切にしつつ、学力の基礎的・基本的事項の確実な定着のために提案ができる教職員の育成 ・校内研究授業・協議会を年 3 回実施	①学校評価アンケート(保護者)、「学習」項目について、肯定的回答 90%以上 ②「学力向上プリント」の繰り返し活用及びその改善ができたか ③各職員、資質向上のための自己研鑽に励むことができたか(自己評価シート)	①R05 年度学校評価(保護者)「学校はわかりやすい授業を行っている」項目で肯定的回答→94% ②自己評価面談時に、「学力向上プリント」の活用及び改善について確認したが、全体として取り組んではいない。 ③自己評価面談時に確認し「書籍(様々なジャンル→政治,経済,歴史,教育等)から学ぶ」、「大学等が主催するセミナー・勉強会に自主的に参加」等の報告があった。	C	◎学力の基本的・基礎的事項については、今年度、各学年がその定着のために取り組んだことやそれによる成果をまとめ次年度に活用する。とにかく繰り返しに努める。 ◎自己研鑽については、「広く学ぶ(generalist)から、専門を高める(specialist)」ことを共通で認識する。 ◎過去の問題を繰り返して定着させていく方法しかないと思う。	○繰り返しの学習で、子どもたちが理解・成長した実感が喜びに繋がればと思います。 ○さいたま市学習状況調査「算数」については、もう少し頑張ってほしい。 ○問題の読解力は「国語の力」。それが徐々に向上している。現在の方針を継続することでより向上するのではないか。 ○職員の資質の向上のために、教職以外の世界を経験するのもいいと思う。
		・「読む・書く」活動の充実	・「ことば(母語)」への気づきを大切に(全職員が常に念頭に)→母語について知り、外国語との違いに気付かせることで子どもにより「母語」についての理解を深めさせる→読解力向上に繋がる ・各学力調査結果の考察及びその共通理解 ・研修テーマ「自分の考えをもち 自ら表現できる七里っ子の育成」の実現→「書く力」を中心に ・「自ら本に手を伸ばす児童」の育成→朝読書、読み聞かせ、読書月間	①さいたま市学習状況調査結果(R05 年度→国語・算数)がさいたま市平均を上回ったか	①さいたま市学習状況調査結果(R05) 「国語」3,6 年→▼ 4 年→○ 5 年→▽ 「算数」3,4,6 年→▼ 5 年→▽	C	◎子どもたちには「母語への気づき」を多く経験させて、その知識を深めさせていく。 ◎全国及びさいたま市学力学習状況調査の質問用紙・回答用紙を全職員で分析し、今必要とされる「学力」について学校全体で理解する。そして、それらを身につけさせる方策を研修や研究授業等を通して全職員が身につけ実践していく。 ◎「自分の頭で考え表現する(書く)」機会を多く設け、実践させていく。	
2	【現状】 ○どの子も、日々明るく元気に生活できている。 ○休み時間や放課後は、校庭で活発に体を動かす子どもが増えてきている。 ○数名の登校渋りの子どもたちは、今年度登校できるようになっている。 【課題】 ○ちょっかいの出し合いで、相手に嫌な思いをさせてしまう児童がいる(いじめ案件になることも)。 ○授業中(特に体育,図工,家庭科)、正しい用具・道具の使い方ができていない子どもが見られる。 ○雨の日など、落ち着いた廊下歩行や教室での正しい過ごし方ができない子どもがいる。	・誰もが安心・安全な環境で自らを高めることができる	・一人ひとりの特性を共通理解し、全教職員が子どもとの信頼関係を構築する(教師による子どもへの積極的声掛け・かかわり) ・すべての子どもは、安心・安全な環境の下でのびのび生活し、成長しなければならない。そのために、不登校・いじめの撲滅を目指す。そのために、日頃から子どもたちへの声掛けを徹底し(未然防止の徹底)、様子の変化(登校渋りなど)に気付いたときは、管理職・生徒指導主任を中心に学校全体で解決のために即行動する	①不登校/いじめ件数昨年度比 50%減 (R04 [不]→5 件,[い]→6 件) ②学校評価アンケート(児童)、「学校による子どものトラブル対応」項目について、肯定的回答 90%以上(R04→否定的回答 20%)	①R05[不登校(長欠含む)]→8 件 [いじめ]→8 件(R05.12.22 現在) ②R05 年度学校評価(児童)「学校による子どものトラブル対応」項目で肯定的回答→86%	B	◎次年度も、「未然に」を大切にしながら、日々の生徒指導に当たっていく。もし、何か起きたときも「報告・連絡・相談・確認」の系統でもって早期対応・解決に努めていく。不登校児童に対しては、家庭との連絡相談を密にし、学校としてできること(家庭訪問/電話連絡/朝の迎え等)をしながら、その解決を図っていく。 ◎子どもと教師の信頼関係を強固なものにし、なんでも相談できる関係を築く。その結果、子どもは安心感をもつことができ、生徒指導問題の早期発見・解決につながると考える。	○不登校に対する子どもの対応については学校全体でフォローしており、ありがたい。引き続き頑張っていただきたい。 ○生徒指導主任の話から、子どもたちを見守っていることがわかり感謝します。 ○いじめへの対応が市の方針と同じであり、今後も同じように。いじめは大人になってもなくならないので、それに立ち向かう「なにくそ」と自分で立ち直せる気概を子どもたちに育てていって欲しいです。 ○いじめ問題の解決は非常に難しいが、協議会の話では個々の問題を随時解決している。現在の方針を継続することが大事。 ○ケガについては、運動不足が原因のひとつにあると思う。準備運動をしっかりと。
		・学校施設での事故・怪我の未然防止	・毎月の安全点検(10 日)では、「子どもの目線、叩いて、ゆすって」を基本に行う(体育施設については月 2 回行う)→異常個所があった場合は即修繕 ・研修の時間を使って、事故に繋がるであろう危険行為(授業中 特に体育,図工,家庭科)・危険個所の共通理解を行う ・子どもたちに「落ち着いた生活」の徹底→ケガ・事故の未然防止のため ・毎日の登校指導、通学班会議(年 3 回実施) ・交通安全教室の実施(1,3,4 年)	①学校施設の瑕疵による事故 0(ゼロ) ②学校内での怪我の件数→昨年度比 30%減 (R04 年度→261 件(1/19 現在)	・学校施設の瑕疵による事故 0 件 ・学校内での怪我の件数→243 件(R05.12.5 現在)	B	◎毎月の安全点検結果をまとめ、異常個所を即修繕を徹底したことにより施設管理の瑕疵による事故は無かった。次年度も引き続き点検・即修繕に努めていく。 ◎授業中の事故をゼロに近づけるための研修(図/家/体)を行う。→今年度、実際に起きた事故・ケガの状況から、その防止策を皆で考える。 ◎「いつも元気な七里っ子」、これからも元気な姿を見せてください。	
3	【現状】 ○教育活動を通して、「子どもをよりよく変容させることで地域・家庭の信頼を得る」こととをモットーに、全職員で日々の指導に取り組んでいる。 ○学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を年 3 回開催し、学校や子どもたちの現状、そしてこれからについて活発な熟議を行った。毎回の会議録を学校 HP に公開している。 ○学校行事は、計画通り行うことができている。そして、多くの地域・保護者の方々に来校・参観してもらい、本校の教育活動への理解を深めてもらっている。 【課題】 ○コミュニティ・スクールテーマ「笑顔で 強く たくましい子」の実現のための、具体的な取組・実践が明確になっていない。	・子どもをよりよく変容させる	・【基本スタンス】→子どもをよりよく変容させることで地域・保護者からの学校への信頼を得る ・教職員一同「当たり前のことは当たり前に」を念頭に、子どもの指導にあたる。 ・学校 HP「子どもの様子」を毎日更新する (家庭での話題作り一環として)	①学校評価アンケート(保護者)、「学校生活」「あいさつ・清掃」「学習」項目について、肯定的回答 90%以上 ②学校 HP を毎日更新	①R05 年度学校評価(保護者) 「挨拶」項目で肯定的回答→98% 「清掃」項目で肯定的回答→93% ②学校 HP 毎日更新→全職員で協力しながら毎日更新することができた。「家庭での話題のひとつに」との想いをもって今後も続けていく。	B	◎次年度も「当たり前のことは当たり前に」を大切にしながら、子どもたちの指導に当たっていく。掃除に関しては、「やり方」「頭を使って」「声かけ合いながら」をモットーに全職員で指導に当たっていく。 ◎HP に関しては、引き続き毎日更新していく。保護者から「安心する」との声もいただくことができた。	○「あいさつ」については、引き続きあいさつができるよう、子どもたちへの指導をお願いします。 ○多くの先生方の地域活動への参加、ありがとうございます。子どもたちが何十年後かに、この地域で育ってよかったと思えるようであればと願います。 ○子どもたちが地域に出て、地域の人々と話したり、ふれ合ったりすることはやっぱりいいことなんだなぁと思います。 ○現在の地域対応を実践すれば、子どもが地域の行事に参加したり、地域の人々が学校を訪問したりと敷居が低くなり、保護者との交流が促進され「地域・家庭との信頼」がより深まると思う。
		・地域、家庭、学校の連携を強固にし、子どもたちを見守る	・学校運営協議会の開催(年 3 回) →テーマ実現のために何ができるか(熟議)→実践 ・4 月 22 日(土)に行われる「七里地区自治会連合会議」で本校の教育活動等について理解・協力をお願いする ・地域行事及び活動(自治会夏祭り、見沼区運動会、クリーン活動、バザー等)への参加及び子ども・保護者への呼びかけ ・各種地域活動への教職員の参加(1 人 1 回)	①学校評価アンケート(保護者)、「地域協働」項目について、肯定的回答 90%以上 ②学校運営協議会を年 3 回以上開催し、テーマ実現の具体的な取組を明確にし実践できたか	①R05 年度学校評価(保護者)「地域協働」項目で肯定的回答→97% ②計画通り、年 3 回実施した→熟議では、地域・家庭、学校の日頃の取組がテーマ実現に迫っていることを認識した。	B	◎子どもたちのよりよい成長のためには、地域・家庭・学校の三者による連携は不可欠と強く確信する。今年度同様、学校が地域や家庭から信頼を得るためのひとつとして地域行事(各自治会夏祭り、各自治会クリーン活動、体育振興会主催運動会など)のへ積極的に参加する(様々な職員が)。 ◎地域・保護者からの願いや声を拾い集めることで、より濃い熟議につながっていくと考える。授業参観や学校行事、個人面談、PTA 活動で地域・保護者の方々が来校した際には、学校として積極的に話を聞き、願いや声を拾い集めていく。	
4	【現状】 ○なんでも言い合える職場環境の中で、それぞれの職員が自分の役割を自覚して、日々の職責に当たっている。 ○大きな仕事は割り算(分担)の考えを皆で共有し、それに取り組むことができる。 【課題】 ○「当たり前」(誰に対しても明るい挨拶、場を清める等)が徹底されていない。 ○教職員としての資質を高めるための、自己研鑽に取り組むための余裕がない。	・自分に自信をもちながら、生き生きと子どもに指導できる教職員の育成	・日々の新聞等から気になる話題(政治・文化・スポーツ等)は、日報や公務端末で周知し職場内での話題提供に努める。 ・職員同士「当たり前」の徹底のために声を掛け合う集団にする ・自己を客観的に見つめさせることで、自身の資質向上のために必要な学び・研修に努めさせる(研修受講奨励・キャリア navi の活用) ・自己研鑽に励んだ結果については、校内共有フォルダ「自己研鑽を共有しましょ」に格納させ周知させる。	①病気等による休職者 0(ゼロ) ②自ら資質向上のために研鑽に励み、その内容を全職員と共有することができたか	①病気等による休職者 0 件 ②数人の職員は、学んだことを本校のネットワーク内にある「自己研鑽しましょフォルダ」に入れ周知することができた。そして、フォルダ内から学ぶ職員もいた。	B	◎すべての職員が、毎日明るく元気に自分の職責を果たすことができるように、学校教育目標実現のために、仕事の内容を見直し、負担軽減を図る。そして、子どもに対して誠実な組織を作る。 ◎「常に学び続ける、自ら提案し続ける」教諭を育成する。そのために、学校の課題を全体で共有することで、解決を目指す一員としての当事者意識をもたせる。 ◎「自己研鑽しましょフォルダ」を継続し、互いに学び合える機会を設ける。	○引き続き、自ら学ぶ教職員の育成をお願いいたします(意識向上)。 ○若い先生が多くなり、これからが楽しみです。 ○あまり無理せず、自分の気持ちを大切にしながらありのままを子どもたちに見せる、「当たり前」な姿を見せてくれたらと思います。 ○各先生方は「自己研鑽」をしている様なので、子どものためにより一層努力してほしい。